ISSN 1884-2631

学而（がくじ）

摂南大学図書館報

No.98 2017.3

西洋古版日本関係地図コレクション（本館貴重図書室所蔵）

日本島図 ティセラ/オルテリウス 1595年

ポルトガル人地図製作者ルイス・ティセラによる日本島図で、オルテリウスの1595年版地図帳に初めて掲載された。印刷され、流布した単独の日本図としては最初のもの。その形態といい、国内に記された旧の国名といい、その原拠が行基図系日本図であることは確実と言われている。

「スペイン黄金世紀文学稀覯本コレクション」（本館貴重図書室所蔵）

スペインが文化的にヨーロッパの他の国々の追随を許さなかった絶頂期を黄金世紀と呼ぶが、厳密にはセルバンテスが生まれた1547年からカルデロンが亡くなった1681年までを言う。本コレクションは、17世紀に出版された刊本オリジナルで、スペイン古典劇の創始者ロペ・デ・ベガの作品3点と19世紀に出版された黄金世紀の文学作品及び歴史資料全25点によって構成されている。なお、後者の出版は19世紀だが、手書き原稿のまま眠っていた未刊行の作品で占められているのが特徴で、希少性は高い。

CONTENTS

学びの仲間を大切に！ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　図書館長　福田　市朗
「産み育てと助産の歴史 ―近代化の200年をふり返る―」を通して ・・・4
　看護学部　教授　田中　結華
地域連携と図書館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　理工学部　教授　尾山　廣
ビブリオバトル2016 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
新サービスの紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
枚方分館ニュース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
利用者アンケート結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
図書館学生サポーター活動記録・推薦図書 ・・・・・・・・・・・14
図書館利用統計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
摂大文化大賞・編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

学びの仲間を大切に！
ーアクティブ・ラーニングのこれからを考えるー

図書館長　福田 市朗

はじめに

学生を主体的に学ばせたい。アクティブ・ラーニングの全学的な導入は、本学が重視する「教育の質的転換」を図る具体的な実践を意図している。しかし、主体的な学びは自らを突き動かす目標がなくては始まらない。では、どのようにして自らの学修目標を知ることができるのか。

最初は博（ひろ）く学ぶことから始まる。そして知りえたことを審（つまび）らかに問い、他と比較しながらじっくりと考え、正しい知識を得る。最後に、知識を知識としてとどめずに実行する（『中庸』：博学・審問・慎思・明弁・篤行）。このような学びの有り様はPDCAサイクルに通じ、決して個別に存在するような作業ではない。

ところで、2016年7月に本学新入生を対象に実施された「大学生基礎力レポートⅠ」（（株）ベネッセi－キャリア）における私のゼミ生対象の個人別結果報告書がある。データ数は26件と少ないが、「教育の質的転換」を図るための具体的な課題がうかがえる。この「基礎力レポートⅠ」は、新入生が大学生活を有意義に送るように、自らの学修目標を定めて、具体的な行動計画を立てて実行することを支援する目的で実施されたものである。

アクティブ・ラーニングが目指すべきもの

第1ステップは、目標の設定と目標達成に向けた心構え、意識と行動に関する質問で構成されている。主として個々の学生の「進路を考えるうえで必要な意識・行動」の程度が報告されている。この報告を見る限り、学びの目的・目標に関する意識の高さは学生間で大きなばらつきがある。すでに明確な目標を持っている学生、大学で目標を見つけたい学生、目標に無関心な学生がほぼ同じ割合で存在していることが分かる。

では、学生は自らの学びの目標をどのようにして見出すことができるのか。確かに、教員は学生に対して専門的な知識を教授し課題を与えることはできるが、学生が自らの学修目標を発見する刺激剤にはなりにくい。実際のところ、学生の学修目標は、ほとんど仲間からの刺激や社会との現実的なかかわりの中で発見されるものである。従って、アクティブ・ラーニングに課される最初の課題は目標の発見を促すこととなろう。

第2ステップでは、「チームで問題を解決する能力」の程度が自己管理力、対人関係力、計画・実行力、そして批判的思考力（クリティカル・シンキング）の4項目にわたって報告されている。この報告から分かることは、仲間づくりに必要な自己管理力や対人関係力、計画を立て実行する力は比較的高いにも関わらず、批判的な思考力が低いことである。友達の意見を受け入れ、自分の考えを受け入れてもらうが、そこに疑問を感じ、反論したり、吟味するなどの批判的思考力が乏しいのである。その結果、議論はするがチーム力として結集されないことが伺える。

では、こうした現状をどのように打開すればよいのであろうか。学生にとって専門知識が豊富で権威を持つ教員は議論の相手となりにくいであろう。仲間こそが議論の相手としてよいし、批判的な思考力を向上させる相手となるであろう。従って、ここにもアクティブ・ラーニングが果たすべき課題があると思われる。

この「大学生基礎力レポートⅠ」に関する全学的な分析結果は教務課より発表されるのを待つしかないが、2年後に再び実施される「大学生基礎力レポートⅡ」の結果と比較することができるなら、さらに新たなアクティブ・ラーニングの課題も見つかると期待される。

ラーニング・コモンズでの学習風景

大学全体がラーニング・コモンズに

昨春、本学図書館に開設された「ラーニング・コモンズ」は、仲間を得て学ぶアクティブ・ラーニングを支援する学修の場であり、仲間との学修を通して自らの精神を豊かにすることを狙っている。もし主体的な学修を通して自らの精神が豊かになれば、自分の周りにユニークな学生がたくさんいることが分かるだろう。残念ながら、私たち教員は個々の学生のもつユニークさを知るには少しばかり遠いところにいるように思う。ただ一つ付け加えるなら、主体的な学習になぜ仲間が必要となるかである。

私たちは自分自身で見出した理由によって物事を納得し、他方で他者との違いを通して自らを反省する。同じ言葉を用いても言い方一つで異なる考えとなる。こうしたことに気づかせてくれるのが仲間なのである。もし相手の考えがおかしいと感じたら、それは互いに立つところ、互いに見ているところが異なるからである。教員は学生の間違いを指摘するが、仲間と行う学修は間違いを指摘しあうだけではなく、それを克服する力を与えてくれる。それこそアクティブ・ラーニングがもたらす最大の魅力である。従って、「ラーニング・コモンズ」は図書館に限定されず、大学全体が「ラーニング・コモンズ」になるべきだと思う。

私たちの知性は決して自分の内に閉ざされたものではない。同様に、思考は私たちに自分の枠を超えた世界があることを示し、かつ、自分を見つめるための高みを与えてくれる。大学での学びは教科書に書かれている知識やスキルを得ることではなく、新たな知識を創造していくことにある。学力だけで測られるスマートさではなく、社会に貢献できる社会的なスマートさを伸ばしていくことがアクティブ・ラーニングの目標である。

おわりに

最後に、＜学生が主体的に学ぶ＞ことと＜アクティブ・ラーニング＞の関わりをパスカル（B. Pascal）の言葉を借りて伝えたいと思う。

『実りある注意を与え、相手が間違っていることを示すには、相手がどの側面から事柄を見ているかを観察しなければならない。なぜならその側面から見れば、たいていは相手の考えが正しいからだ。そして、相手にそのことを認めてやり、その上で、それが間違っている側面を相手に示してやらなければならない。相手はそれで満足する。なぜなら、自分は間違えていたわけではなく、ただすべての側面を見ていなかったにすぎないことが分かるのだから。じっさい誰にせよ、全部を見ていないからといって腹は立てないが、間違えたいとは思わない。その理由はおそらく、人間の本性からして、すべてを見ることはできないが、やはり本性からして、注目している側面で間違えることはありえないからである。ちょうど、感覚器官の知覚がつねに真実であるように。（701）』（『パンセ』（下）、P.268、塩川徹也訳、岩波文庫）

パスカルは『思考を欠いた人間を思い描くことはできない』と言い、人間の尊厳はすべてこの考える力にあると言い切る。そしてもっと重要なことは、この考える力は一人では決して育たないということである。私たちの持つ知識は完璧ではなく、自分の下した結論には多くの間違いが含まれている。この間違いを克服するには勇気がいる。その勇気を与えてくれる人は、ともに語り合える仲間である。

「産み育てと助産の歴史
―近代化の200年をふり返る―」を通して
～いのちの始まりと終わりの施設化を振り返る～

看護学部 教授　田中 結華

はじめに

医療の高度化は、平均寿命が延びた背景として語られる。生命の誕生とその終わりを「病院」の中で迎えることになったのは、いつからだろうか。本稿の依頼を受けて、様々な書を手にとって振り返ってみた。本編は、社会学者の白井千晶氏が編著された、「産み育て」の歴史を振り返る著作である。歴史学者、社会学者、ジャーナリストなどの専門家が協力してまとめている。

はしがきには「本書の書き手も、誰かから産まれ、今手にしているあなたも病院で産まれたか、自宅で生まれたか」とある。特に、現在、地域医療の現場では「在宅での看取り」の時代に向けて大きく舵が切られるなか、一方で今までの出産をめぐる歴史に関心を寄せる意義もあるのではないかと思う。

少子高齢化社会と言われて久しい。2025年には団塊の世代がすべて75歳以上になるという予測、それらを支える社会に向けて大きく政策が変わった。子どもの数が少なくなることに危機感を抱く社会が大きく取り上げられた契機は、合計特殊出生率の低下が2を切った、いわゆる1990年（平成2年）の1.57ショックの頃が本格的な少子化の始まりと言われる。

個人的には、私はちょうどそのころに看護師として妊娠期を過ごし、さらに出産後は大学で教員としてスタートを切った。社会は現在よりは経済的に好調な時期ではあったが、女性が多数を占める看護師も、子どもを育てながら夜勤も含めた勤務を続けるのは肩身が狭かった。さらに、大学では教員が育児休暇を取るという前例もほとんどなく、産前産後休暇のみが可能であった。多くの働く女性は同様の状況であったろう。私はずいぶんとのんびりと構えていて、職場復帰時には申し込めば認可保育所に直ぐ入ることができると思っていたが、急に申し込んでもそれは不可能なことであった。なんとか共同保育所に産休明けの子どもを入所させ、翌年4月認可保育所に移ることができ、家族や職場の助けを借りて働き続けることができた。当時、「少子化になるのだから、保育所や小学校など子どものための設備は減っていくので増やさない」と言われ、現在と変わらず、仕事との両立は、なかなか条件がそろわないと非常に困難だった。政策としての子育て支援は、超高齢化社会とセットになり、今や働き方の見直しにようやく影響が及ぶようになってきたのかと感慨深い。子育てが（ほぼ）終わった今、残された自分自身・配偶者とその親世代の介護が目下の自分の人生の課題である。

歴史的に見ると、成熟期の社会は経済発展と生活水準の向上を経て、少産少死社会となることは、すでに古代ローマから存在していたらしい。本書の著者は、子宮の中で胎児が育ち、産まれてくるのは普遍的なことであるが、出産は「社会的」かつ「文化的」な影響を受けると述べている。「お産は病気ではない」と言われる一方、医療の質向上と普及がお産の危険度を下げ、乳幼児死亡率や、妊産婦死亡率の低下につながったことは周知の通りである。超音波での検査、胎児の心拍をモニターする装置と、様々な医療管理の発展は出産の安全を向上させることに役立った。なぜ、人々はそのようなお産を求めてきたのか。どのような社会の変化があったのか、どのような歴史をたどって来たのか。14名の著者は、トリアゲ婆による江戸時代のお産、子殺し堕胎、養子斡旋などの「産み」の現場における負の側面も含め、産婆から助産婦へ、そして現代の大学での助産師教育、お産事情まで、歴史的資料、統計資料、調査、インタビューを通し、様々な角度から歩みを再構成して見せる。

江戸時代から始まったお産の近代化

著者は出産の近代化を「江戸時代」からだとする。なぜなら、胎児の様子を実際の解剖に基づき実証的に説明した資料が見出されるのが、19世紀半ばであるとする。同じ江戸期でも17世紀の文書は、胎児を仏

像や仏具と見立てていた。しかし解体新書の発刊は1774年であったことを考えると、その時代の流れが感じ取れる。実証的な解剖学の発展を期にお産の近代化がはじまった。庶民のお産の様子はほとんど資料としては、残されていない。それは、お産にかかわる庶民とその介助にあたる者は、「語る者」でも「語れられる者」でもなかったという点で物語られる。経産婦など出産に慣れている者には、共同体の中でのそうした介添えもなく、家人さえ居合わせずに出産することも一般的であった。

江戸期の資料の中で興味を引いたのは、オランダ医書を独学し、お産の介助の名手として知られた江戸末期の「明石てふ」の記述である。彼女は難産の救い手として信仰の対象にもなっていたという。介助の道具や、独自の処方を開発していた資料なども見られる。自然に任せるしかなかった時代は、出産は母子ともに命を賭けた出来事であり、そのことは今も変わらない。その後の母乳についても、人工乳もない時代であり、子どものための母乳の商品化や、捨て子の資料などにも触れてあり、興味深い。

明治期以降は西洋近代医学の導入がなされ、医師による産婆教育が発展した。明治期から昭和初期までの時期は、それまでの慣習的なお産と比較し、衛生的なお産、産後の栄養摂取促進が進んだ。その一例として、分娩時の姿勢の変化を取り上げている。それまでは座った姿勢が一般的であったものが、仰臥位へと変化した。これは医療的介入がしやすい姿勢であるため、この時代を通して一般的になってきたことが解説されている。

国策としての「出産」から戦後へ

近代国家としての明治期から昭和期では、人口の増加は国家の政策であり、昭和初期や戦時中には「産児報国」といったスローガンが、組織的になされていた。さらに、従軍看護師としての動員、空襲下でのお産、満州からの引き揚げのお産、沖縄戦での状況などが語りとして綴られている。当時の自らの戦中・戦後の活動の意味を振り返り、「人の命の担い手」であることが、知らず知らずに戦争への加担につながったのではと述べている。

戦後は第2次世界大戦後の制度改革の中で、GHQ主導により改革された。助産婦はGHQの方針により看護師と関連づけられ、現在のように看護師資格を要件とする方式となった。「産み」の場が医療と関連づけられることの要因のひとつになったこととしている。現在、看護職者は「保健師助産師看護師法」のもとに、職種としてつながりを持っているが、同じ教育基盤を持ち、連携していく流れが、戦後の医療改革と密接な関係があったことは興味深い。

「産み育てと助産の歴史
ー近代化の200年をふりかえるー」
白井千晶（著）医学書院

お産の場の施設化

昭和30年、8割は自宅出産であったのが、昭和40年には7割が病院・診療所で産まれている。これにより、お産の立ち会い者は助産師から医師に移行している。昭和前期の農山漁村における自宅出産の体験者の語りなどから、出産場所の変化、受胎調節（バースコントロール）や人工妊娠中絶が、政策や女性人権運動のなかでどのように変化したかも興味深い。陣痛を表現することもはばかられたお産の場は、当事者が選択して「産む」場になってきた。消費社会の中での産み育てを当事者の女性とその家族はどのように考えてきたのか。そのことが現在の社会事情に強く影響していることについても、考え直す機会となった。

おわりに

人口減少の中で、女性は、高齢者と共に労働力の供給源としても見なされている。現在、筆者は、在宅看護の現場で、健康上の困難があっても、在宅で家族とともにできるだけ過ごしたいという希望が、かなり実現できる選択肢であることをひしひしと感じる。一方で、在宅はリスクもあり、家族の負担があることも現実である。医療の高度化を一律に信じる時代ではなく、逆に社会の課題として、想定していた未来から大きく変化してきている。女性視点だけではなく、現在私たちが選択してきた生き方の結果として、どのように次の世代に引き継いでいくのかを振り返ることに繋げていきたい。

地域連携と図書館

理工学部 教授（地域連携センター長）　尾山 廣

はじめに

図書館は、さまざまな情報を集めた「知」の拠点であり、インターネットが普及した現在でも便利な施設である。図書館は、その中心は自治体が開設した公立図書館であり、都道府県と市区の99%、町村の55%に設置されており、大学図書館は国公私立合わせて1423館（うち本館が765）あり、利用の有無は別として身近な存在である（2015年）。その中を見ると、公立図書館の蔵書は4億3千万冊であり、大学図書館の3億5千万冊を加えると総計で約7億5千万冊、国民一人あたり約6冊になる。この知的財産を私たちは豊かだと認識しているだろうか。公立図書館は、地域の教育力を向上させる「知」の拠点であり、子供から大人までに学習の機会を提供すると共に、小学校と資源共有のネットワークを構築し、子どもたちの読書活動を支えている。近年、地方行政サービスの改革に基づき公立図書館にも指定管理者制度が導入されるようになったが、総務省の「地方行政サービス改革の取組状況等に関する調査（2015年4月）」によると、都道府県立図書館の導入率は9.5%（6/63）、市町村立図書館は15.2%（495/3241）であり、現状は自治体の運営がほとんどである。なかには、武雄市図書館のように、企業が運営する新しい形態も誕生し（2013年4月リニューアル）、これまでの図書館とは異なるライフスタイルを軸とした図書の分類と、図書館、書店、カフェを融合させた全く新しいコミュニティ空間を提案したケースもあったが、地域に立脚し、税金で運営されることを考えると、やはり大きな変革は難しいように思う。一部の公立図書館では、ハローワークや医療・福祉機関と連携した情報提供のサービスを行っており、公立図書館の利点を生かして、地域の課題解決に向けて、地域の中心となる「住民が集う」施設としての機能強化が期待されている。

近隣の公立図書館

本学の地元、寝屋川市では、中央図書館（1970年5月開館）、東図書館、駅前図書館と4分室の他に、巡回サービスを行っている。蔵書数は518,248冊であり、分野別では文学が41%と最も多く、絵本の83,000冊を含めて児童書が全体の38%を占めている（人口約23万7千人のうち、14歳以下が12%）。門真市は本館（1997年4月開館）と門真市民プラザ分館で構成され、蔵書数は254,647冊であり、分野別では児童書と文学が全体の58%を占めている（人口約12万5千人のうち、14歳以下は11%）。交野市も同様の傾向であり、各自治体では市民の利便性と子供たちの読書活動の推進に注力している。

生涯学習と図書館

文部科学省は、生涯を通じた学習活動を推進すると共に、子供たちが地域社会の中でのびのびと成長する環境の整備を求めている。しかしながら、調査では、子供たちだけでなく、成人の学習活動や社会活動を行う時間も減少しており、生涯学習をしてみたいと思う人の半分が実際に実行できていない。仕事が忙しくて時間の余裕がないことや費用的な問題が主な理由である。日本にはサバティカル制度が浸透しておらず、2014年の世帯平均年収は542万円と、確かに厳しい状況である。東大生の親の世帯年収は在校生の半分以上が1千万円以上であるという記事があった。親の経済格差が子供の教育格差につながると騒がれたことは記憶に新しい。余暇や余裕がなければ、学習できないのであろうか？寝屋川市中央図書館を訪れたときも、お昼時ではあったが、多くの方が新聞を熱心に読まれていた。ところで、2015年、スマートフォンの普及率が70%を突破した。インターネットはいつでもどこでも簡単に情報を入手できるが、活字から情報を得ようとするニーズも存在する。しかしながら、年少者や高齢者、貧困層は情報収集の手段に乏しく、情報社会の中である意味孤立を招いている。家庭教育はすべての教育の原点であり、人間として成長する上での基

寝屋川市中央図書館

盤である。学習には、家族などの支援の他に、個人個人が学び合える環境づくりが必要であり、もちろん学校がその中心ではあるが、図書館もその中核となる施設である。図書館では、子供たちの読書活動を推進するために、学校への書籍の団体貸出しや地域への移動図書館など、さまざまな工夫をしている（寝屋川市駅前図書館は午前10時から午後9時まで、日曜日も利用できるなど、サラリーマンにも配慮したサービスを展開している）が、スマートフォンの普及により、中高生を中心に活字離れが進み、子供たちの読書離れ、図書館離れが問題となっている。人は、幼年期、少年期、青年期を経て壮年期、中年期、高年期へと歩むが、それぞれのステージは連続し、経験を積み重ねて成長するため、できるだけ早期に、できれば小学生のときに、読書の習慣を身に着けると、その人の“人生”の景色も変わることであろう。

地域を育む大学

寝屋川市は、日本創成会議が発表した消滅可能性都市に含まれている。この指標は若年女性人口（20～39歳の女性人口）の予想減少率から算出したものである。大阪府内の14市区のうち、大阪市内（大正、浪速、西成、住之江、中央）を除くと、富田林市、寝屋川市、河内長野市、柏原市、豊能町、能勢町、岬町、河南町、千早赤阪村が含まれている。寝屋川市の所得ランキングは全国的にも上位層に入っており、4自治体（富田林市：1大学・学生数：3137人、寝屋川市：2大学・同：9578人、柏原市：2大学・同：6487人、河南町：1大学・同：5717人）には大学が設置されている。なぜ、大学という若い男女が集う環境があるのに、彼らと年令の近い子育て世代が寝屋川市の利便性、環境（自然・教育）、治安に魅力を感じないのであろうか。本学は、これまで積極的に地域貢献活動を推進してきた。地域連携センターは設置10周年を迎え、地域の活性化に多少なりとも寄与してきたものと自負しているが、今一度初心に戻り地域の課題を考え直す必要があるように思う。

大学図書館と地域

本学図書館は、寝屋川本館と枚方分館からなり、54万6千冊の蔵書がある。7学部13学科の教育・研究を支援するための専門書を中心に、情報端末やビデオ視聴覚フロアなどを設置している。いわゆる文芸書が少ないため、公立図書館とは蔵書パターンが異なる。私たち教員は、机上のパソコンで情報を入力するだけで、世界中の学術情報をダウンロードできるため、図書館に出向く機会も激減した。私の専門とする生命科学は日進月歩であり、教科書の内容が5年で古くなる領域もあるため、最先端の情報を絶えず追跡している。そのため、電子ジャーナルが主流となり、冊子体を発刊しない出版社も増えている。一方、文系の分野は、古い資料自体に価値があり、それらを長く閲覧できるように保管しておく必要がある。このように、大学の図書館も時代と共に変化している。

本学では、北河内6市（大東市を除く）の20歳以上の市民であれば、利用登録（登録料が必要）をすると、図書・雑誌を自由に閲覧することができる。しかしながら、大学の施設は一般市民の方々には入校が躊躇われ、わざわざ足を運ぶには敷居が高い。もう少し自由に、公立図書館と連携して館外貸出を可能にするなどの取組みがあっても良いと思う。

おわりに

ヒト（人材）、モノ（資源）、カネ（資金）のうち、大学が出来ることは人材を育成することであり、それを通じて地域が豊かに、国が強くなる。地域の課題を解決する取組みは話題性があり、それ自体は良いことであるが、真の意味で「開かれた摂南大学」になるためには、公開講座を積極的に実施し、地域と協働する大学づくりを進めなければならない。地味ではあるが、地域住民に学習機会を提供し続けることが北河内地域の発展につながるものと信じている。

最後に、寝屋川市、門真市、交野市から図書館に関する資料を、寝屋川市中央図書館の尾﨑安啓館長から貴重な情報を頂いた。ここに御礼申し上げます。

全国大学ビブリオバトル2016（京都決戦）に本学学生が出場！

図書館では3年前から本格的にビブリオバトルの普及を目指し、図書館学生サポーターや協力いただけるゼミなどを通じて、学生諸君のスキルアップに取り組んできました。その成果を反映して、今年度学内での予選会（11月22日開催）を勝ち抜いた外国語学部4年の長島皇貴君が、関西Aブロックの地区予選（12月4日大阪大学中之島センターで開催）を見事勝ち抜き、12月18日に京都大学時計台ホールで開催された「全国大学ビブリオバトル2016－京都決戦－」に出場しました。本学にとっては昨年に続き2年連続の快挙となりました。

全国大会当日は長島君も持てる力を十分に発揮して全国各地区から選ばれた精鋭相手に奮戦しましたが、残念ながら準決勝で涙を飲み、決勝進出はなりませんでした。しかし、短い練習期間にもかかわらず、2年連続で全国大会に本学の名を知らしめてくれたことは素晴らしいことです。

全国大会出場は貴重な経験であり、今後に続く人たちにエールを送ってもらう意味も兼ねて、長島君に感想やビブリオバトルに対する思いを寄稿してもらいました。

全国大学ビブリオバトル京都決戦に参加して

外国語学部４年　長島　皇貴

まず始めに、今回のビブリオバトルに出場するきっかけとなったのは、ゼミの先生の誘いからでした。4回生で卒論に集中したかったので、出場する予定は全くありませんでした。しかし、先生や友達に半ば強引に誘われ、出場することになりました。私は元々人前で話すことが好きでした。そんな自分を試す良い機会だと感じましたし、何よりも大学生活の中で何も誇れることを残すことはできなかったので、やるからには全国大会に出たいという気持ちがありました。そして、自分を信じ、「大学予選会」に挑みました。結果、予選会でチャンプ本になり、「地区予選」に出場することができました。「地区予選」でチャンプ本になった時には自分でも驚きましたが、見事「全国大会」に出場するチャンスを獲得できました。しかし、全国大会では他の発表者のプレゼンの上手さや、会場の空気に呑まれ、予定していた自分のプレゼンをすることができず、準決勝ラウンドで敗退してしまいました。敗退はしましたが、大学内での結果を知らせるポスターに掲載されたこともあり、色んな先生や友達が声をかけてくれました。今思うと、無理矢理ながらビブリオバトルに出場して本当に良かったと思います。また、ビブリオバトルを通じて、小説が好きになり、本を読む機会も増えました。何よりも、大学生活最後に最高の思い出と誇れる軌跡を残すことができて良かったと思います。ビブリオバトルは自分のプレゼン能力を試すことができますし、他の発表者から勉強することもできます。私自身も全国大会で得たプレゼンの仕方や、発表の仕方は今後、役に立つと思いました。だから、後輩の皆さんには一人でも多くビブリオバトルに参加してもらいたいと思いますし、摂南大学がビブリオバトルの常連校と言われるぐらいに活発に活動してもらいたいと思います。

図書館トーク・イベントを開催！　―増山実氏 来館―

本館ラーニング・コモンズを使用したトーク・イベントが2017年1月12日（木）16時50分から開催され、学生、教職員合わせて約25名が参加しました。

講師は、第4回大阪ほんま本大賞受賞者で人気番組「ビーバップ！ハイヒール」（朝日放送）の構成作家として活躍中の増山実氏をお招きし、受賞作**「勇者たちへの伝言」**とテレビ番組制作などについて福田図書館長と対談形式で実施しました。テーマごとに学生からの読後感想発表や質疑応答が行われ、増山氏から小説を書くきっかけや作品の解説・裏話、テレビ番組制作の裏側などが語られ、楽しい雰囲気の中でイベントは終了しました。

「勇者たちへの伝言」
―いつの日か来た道―
（ハルキ文庫）

新サービスの紹介

図書館の資料をまとめて探せます！

「スマートSearch」

図書館では新しい資料検索サービス**「スマートSearch」**を2016年4月から開始しました。「スマートSearch」はExLibrisのウェブスケールディスカバリーサービス**Summon**をベースに提供されています。

「文献を探したいけれど、どこから検索をスタートすればよいかわからない」と困った経験はありませんか?いままで文献検索を始めるためには、「所蔵資料かどうか?」「雑誌か書籍か?」「国内文献か海外文献か?」「学問分野は?」など探したい文献をある程度明確にして、その条件に応じて適切な文献検索データベースの種類を選択する必要がありました。しかし、これを使えばそれらの様々な資料を1つの「Search」ボックスからまとめて検索することができます。

「スマートSearch」は図書館ポータルのトップページにある「Search」ボックスにキーワードを入力するだけで簡単に検索できます。キーワードを入力して「Search」ボタンをクリックすれば所蔵資料、電子ジャーナル、電子ブック、外部データベースなどの検索結果が1つの画面に表示されます。検索結果は関連度順に表示され、入力したキーワードに対する適合スコア順に並びます。結果表示されたレコードのタイトルをクリックするとOPACの該当レコードや電子ジャーナルや電子ブックの本文ページなどに遷移し、文献を利用することができます。

「スマートSearch」は非常に多くの文献情報を収録しているため検索結果のヒット件数も多くなりがちです。そこで画面左側の絞り込み機能**「ファセット」**を活用するのが「スマートSearch」を使いこなすポイントになります。「本文あり」ですぐに本文が利用できる文献だけに絞り込んだり、「フォーマット」「サブジェクト用語」のファセットで絞り込むことで、探している文献が見つけやすくなります。

図書館資料の検索に慣れていない人や、データベースでうまく文献が見つからなかった場合におすすめの文献検索サービスです。ぜひ「スマートSearch」のサービスを体験してみてください。

枚方分館ニュース

図書館ご利用の皆さんには「難しそうな資料ばかり」、「使いにくそうなシステムや機器」、「相談しにくいムード」と言うイメージをお持ちの方が少なくないようです。枚方分館ではこうしたことを少なくし、図書館が備えている図書資料や各種情報提供や紹介案内を利用し易くするため、利用者にとって敷居の低くなるような雰囲気作りを心掛けています。図書館利用の促進や各種資料の有効活用に繋げ、教育･学習の支援の一端を担えるように日々努めています。

データベース利用説明会の開催

枚方分館では、寝屋川の本館同様に、通常の冊子体資料のほかにインターネットを利用した専門分野のデータベースや文献や資料検索システム、およびDVD･CDなど数多くの電子資料が利用できます。こうした資料をより効果的に利用できるように教育･学習･研究のための情報提供や利用指導･相談を行っています。

とくに利用者向けに各種情報データベースの利用説明会を開催し、電子資料の利用に関する初歩、及び応用の方法をはじめ具体的な検索結果をもとに詳しく解説をしたり、便利な裏技など様々なテクニックなどを案内･提供しました。また希望者には、説明会の後に個別の指導を行っています。

以下は2016年度中に実施した利用説明会です。

▲「CINAHL（シナール）」利用説明会

看護学系基本文献検索サービス

日　　時：2016年4月2日（土）
所要時間：約80分間（解説と演習）
対　　象：看護学部の教員･学生

「CINAHL」利用説明会

▲「医中誌Web」利用講習会

医学･薬学および周辺分野の論文情報検索サービス

日　　時：2016年4月11日（月）、14日（木）、15日（金）　3回実施
所要時間：約90分間（解説と演習）
対　　象：看護学部の教員、3年次学生

「医中誌 Web」利用説明会

▲「SUMMON」利用説明会

図書館の所蔵資料や契約データベース･電子ジャーナル、
機関リポジトリなど図書館で利用可能リソースの検索サービス

日　　時：2016年7月13日（水）
所要時間：約60分（解説案内）
対　　象：薬学部、看護学部の学生･教職員

「SUMMON」利用説明会

▲「Cochrane Library（コクラン）」利用説明会

治療、予防に関する医療テクノロジーアセスメントのプロジェクト

日　　時：2016年7月30日（土）
所要時間：約80分（解説と演習）
対　　象：薬学部、看護学部の教員･院生･学生

「Cochrane」利用説明会

＜会場はいずれも枚方学舎５号館３階 情報処理第１演習室＞

分館限定！読書ラリー「YOMOCA（ヨモカ）」の実施

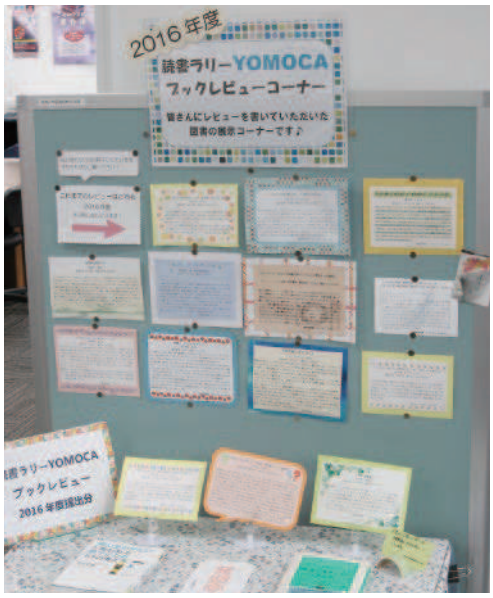
教育･学習･研究のための基本情報の収集や文献検索など、図書館の活用と所蔵資料を利用して読書習慣を促進するために、枚方分館では読書ラリー「YOMOCA（ヨモカ）」を 2014 年度後期から開始しています。

2016 年度も年間を通じて開催し、参加登録者は 108 名を数え、ラリーポイントのゴール達成者は 44 名にも上りました。(2017.2.10 現在)

この読書ラリーは、ポイント制で楽しみながら自由に参加でき、貸出図書の返却時と図書を紹介するブックレビューなどを提出する度にポイントが集まり、規定数に達すると記念品や貸出冊数が増加できる優遇措置が適用される特典があります。

また、読者からのブックレビューは館内展示やブクログに掲載し、読んだ図書の魅力や面白さなどを紹介しています。

枚方分館では、こうした読書習慣の輪が広がれば教育･学習の支援に繋がるものと考え、引き続きラリーの実施を予定しています。



参加者からのブックレビュー

恒例の選書フェアを開催

6 月 27 日（月）から 7 月 1 日（金）まで枚方分館で実施した選書フェアでは、全ての利用者が共通に利用できる図書館配備用の医･薬･看護学を中心とした約 550 冊にも及ぶ専門図書の現物を持ち込み、館内の特設ブースに展示して開催。書店さながらの雰囲気の中、参加者は書店の常連客のように図書を手に取り、熱心に内容を確認して選んでいました。

期間中、寄せられた購入希望図書のうち重複所蔵の調査を経て、合計 203 冊の図書を希望図書として購入、8 月下旬までに受入処理し、9 月初めには全ての希望図書が利用可能になりました。

この希望図書は、協力いただいた参加者への報告を兼ねて特集展示において「選書フェア」として館内の特別ブースで公開しました。

「選書フェア 2016 」（特別ブースにて）

テーマ別特集展示の実施

枚方分館では、時期折々の身近な話題や興味を引く事案から特定のテーマを選択し、テーマを 1 カ月程度で変えながら年間を通じて特集展示を実施しました。

館内の資料を展示公開することで利用者の皆さんに紹介するとともに関心を持って資料に触れていただけるようにして、さらに有効に利用されることを期待しています。

図書館をご利用の際には是非ともご覧ください。

特集展示（特別ブース）

《2016年度 特集展示のテーマ一覧》

時　期	展 示 テ ー マ
5月	関西が舞台の小説など
6月	政治アラカルト
7･8月	“目指せ!摂大文化大賞”
8･9月	選書フェア
10月	環境問題
10月	大　学
11月	日経サイエンス書評の話題書
12･1月	食中毒と感染症
2月	知的遊戯を楽しむ
3月	睡眠について

2016年度 図書館利用者アンケート結果

図書館では利用者の皆さんの図書館に対する認識や要望を確認するため、毎年度アンケートを実施しています。

今年度は昨年の11月から12月までメインカウンター付近にアンケート用紙を置いて入館者に回答いただきました。また、同時に図書館ポータルサイトでも回答いただき、ご協力ありがとうございました。今後の図書館運営に活かしたいと思います。

本稿では、前年度との比較も含め、主な項目の集計結果をお知らせします。

1. 回答者数

241 人（昨年度：157 人） 内、ポータルサイト ：21 人（昨年度：37 人）
【本館】 163 人（昨年度：123 人）
【分館】 78 人（昨年度：34 人）

2. アンケート集計

（1）図書館をどの程度利用していますか。

本館

選　択　肢	教職員	院･学部生他	計（人）	比率（%）	前年度（%）
ほぼ毎日	1	25	26	16.0	20.3
週に2～3日程度	0	72	72	44.2	38.2
週に1日程度	1	44	45	27.6	26.0
月に2～3日程度	0	12	12	7.4	8.9
月に1日程度	0	3	3	1.8	3.3
試験期間のみ	0	1	1	0.6	0.0
ほとんど利用しない	0	4	4	2.5	1.6
その他	0	0	0	0.0	1.6

●昨年同様、回答者の約60%が週に2～3日以上利用していると回答しています。

分館

選　択　肢	教職員	院･学部生他	計（人）	比率（%）	前年度（%）
ほぼ毎日	0	11	11	14.1	32.4
週に2～3日程度	1	23	24	30.8	20.6
週に1日程度	0	10	10	12.8	8.8
月に2～3日程度	0	7	7	9.0	11.8
月に1日程度	0	2	2	2.6	8.8
試験期間のみ	0	18	18	23.1	8.8
ほとんど利用しない	0	5	5	6.4	5.9
その他	0	1	1	1.3	2.9

●回答者の約45%が週に2～3日以上利用していると回答しています。昨年度に比べ、「試験期間のみ」の利用者の割合が増加しました。

（2）図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思われますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館：157人、分館：71人

項　目	本館回答数	比率（%）	分館回答数	比率（%）
教養図書	52	33.1	21	29.6
専門図書	60	38.2	49	69.0
参考図書	38	24.2	26	36.6
視聴覚資料	22	14.0	1	1.4
国内学術雑誌	4	2.5	8	11.3
外国学術雑誌	13	8.3	3	4.2
一般雑誌	31	19.7	14	19.7
電子ジャーナル	7	4.5	4	5.6
電子ブック	15	9.6	3	4.2
データベース	11	7.0	2	2.8
新聞	18	11.5	0	0.0
シラバス掲載図書	5	3.2	13	18.3
資格取得関連図書	37	23.6	5	7.0
文庫本･新書本	49	31.2	22	31.0
その他	2	1.3	0	0.0

●本･分館ともに専門図書の充実を望む声が一番多い結果となっています。次いで、本館では教養図書、文庫本･新書本、参考図書、資格取得関連本の順、分館では参考図書、文庫本･新書本、教養図書、一般雑誌の順となっています。

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項　目	本　館	前年度	分　館	前年度
資料の配置	2.5	2.5	2.5	2.5
閲覧席	2.5	2.4	2.5	2.5
案内表示	2.4	2.5	2.4	2.4
静寂性	2.2	2.1	2.2	2.3
視聴覚設備	2.3	2.4	2.2	2.2
パソコン設備	2.2	2.3	2.2	2.0
ラーニング・コモンズ(本館のみ)	2.5	—	—	—
環境全般	2.5	2.4	2.5	2.4

●本館では「静粛性」が改善され、新設の「ラーニング・コモンズ」についても高い評価となりました。
分館の各項目についてはほぼ昨年並みの水準となりました。
なお、本・分館とも「環境全般」については改善傾向が見られました。

(4) 図書館の企画展示(特定のテーマの図書の展示)についてどう思いますか。

項　目	本館比率(%)	分館比率(%)
関心(興味)がある	33.6	28.2
あまり関心(興味)はない	50.0	50.0
企画展示は見たことがない	16.4	21.8

●本・分館とも関心(興味)を示している人が3割程度に留まり、半数は興味なしと低い数字なのは残念です。

(5) 図書館イベント活動等についてご記入ください。

[a:関心(興味)がある、b:あまり関心(興味)はない、c:知らない]

項　目	本館　比率(%)			分館　比率(%)		
	a	b	c	a	b	c
摂大文化大賞	9.9	48.3	41.7	2.7	40.5	56.8
ビブリオバトル	10.6	58.9	30.5	5.4	44.6	50.0
マイ・フェイバリット・ブックス	9.3	44.0	46.7	4.1	31.1	64.9
選書フェア	11.9	38.4	49.7	13.5	43.2	43.2
図書館学生サポーター活動	6.0	39.3	54.7	9.5	31.1	59.5
読書ラリー"YOMOCA"(枚方分館)	2.2	26.3	71.5	17.6	47.3	35.1

●本館では「選書フェア」と「ビブリオバトル」の関心が高く、分館では「読書ラリー」と「選書フェア」の関心が高い傾向となっています。

(6) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館:140人、分館:70人

項　目	本館回答数	比率(%)	分館回答数	比率(%)
ホームページ	39	27.9	16	22.9
Library Guide[冊子]	1	0.7	0	0.0
館内のパンフレット	15	10.7	4	5.7
館内の掲示	81	57.9	42	60.0
館外の掲示	29	20.7	16	22.9
図書館スタッフ	5	3.6	5	7.1
友人	25	17.9	8	11.4
その他	1	0.7	2	2.9

●本・分館とも「館内の掲示」が最も多く、次いで「ホームページ」、「館外の掲示」の順となっています。

(7) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項　目	本館	前年度	分館	前年度
レポート作成	2.4	2.4	2.6	2.6
自学、自習	2.6	2.4	2.6	2.6
グループ学習	2.3	2.1	1.8	2.2
図書閲読	2.5	2.5	2.5	2.6
雑誌・新聞閲覧	2.4	2.5	2.5	2.5
視聴覚資料鑑賞	2.3	2.4	2.2	2.2

●本館では「自学、自習」と「グループ学習」がラーニングコモンズの設置、館内閲覧席の配置変更に伴う改善傾向が見られました。
分館では「グループ学習」が低下したことを除き、昨年度と同水準となりました。

(8) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い(%)	普通(%)	悪い(%)
本　館	64.9	32.5	2.6
分　館	55.1	44.9	0.0

●本・分館とも6割前後の人が「良い」との評価でしたが、引き続き今後もサービス向上に努めたいと思います。

図書館学生サポーター活動の軌跡

ビブリオバトル予選会11月

図書館には図書館をより良くするために図書館運営をサポートしてくれる、本が好きで、図書館が大好きな学生諸君がサポーターとして活動しています。

「摂大文化大賞」など図書館行事の運営に協力してくれる一方、5分の図書紹介と質疑応答の後、投票でチャンプ本を決定する知的書評合戦「ビブリオバトル」や、自分の好きな本を紹介するだけで優劣を競わない「マイ・フェイバリット・ブックス」などのイベントに積極的に参加してくれています。定期活動は、月に1～2回のペースで行われるミーティングですが、今年度は図書館利用に関する独自の利用アンケートを実施・分析し、ユーザー目線での改善要望や意見をまとめるなど、図書館にとっても大変参考となる活動をしてくれました。

そんな彼らの今年1年の活動を振り返ってみました。

マイフェイバリットブックス10月

アンケート調査結果ポスター発表

ビブリオバトル

学内開催（寝屋川キャンパス）

	日　時	時　間	場　所	発表者	参加者数	備　考
第1回	11月22日（火）	17：00～18：00	ラーニング・コモンズ	5名	約23名	全国大学ビブリオバトル2016予選会

学外開催

	日　時	時　間	場　所	発表者	参加者数	備　考
関西Aブロック地区決戦	12月4日（日）	15：30～16：50	大阪大学中之島センター	関西6大学7名（本学1名）	35名	全国大学ビブリオバトル2016（本学1名がチャンプに!）
京都決戦（本戦）	12月18日（日）	13：30～17：20	京都大学時計台ホール（京都）	全国から29名	約500名	全国大学ビブリオバトル2016参加（準決勝敗退!）

マイ・フェイバリット・ブックス

学内開催（寝屋川キャンパス）

	日　時	時　間	場　所	発表者	参加者数	備　考
第1回	7月15日（金）	12：30～13：15	ラーニング・コモンズ	7名	7名	テーマ「あなたが本当に好きな本」
第2回	10月8日（土）	15：00～16：30	ラーニング・コモンズ	7名	13名	テーマ「あなたが本当に好きな本」

図書館利用に関するアンケート調査

実施期間：2016年6月21日～8月12日
回答者数：88人（寝屋川キャンパスの図書館利用学生）
実施方法：図書館（本館）カウンター前にアンケート用紙および回収箱を設置するとともに、在館者に協力を呼びかけた。
質問内容：図書館およびラーニング・コモンズの利用頻度・感想、自由記述による要望意見
結果まとめ：10月8日開催のマイ・フェイバリット・ブックスにおいて発表

学生がすすめるこの1冊

『海賊と呼ばれた男』（上・下）（講談社文庫）

百田尚樹[著]　講談社　2014年

日本のエネルギーは、石炭から石油に移り変わろうとしていた。戦後、焼け野原になり、物資の供給もままならない日本国内では、石油市場は海外資本に支配されていた。石油会社「国岡商店」の店主・国岡鐵造と店員達は石油メジャー相手に奮闘するものの、徐々に追い詰められていく。日本の誇りを取り戻すために、タンカーを手にした国岡達はある"事件"を引き起こす――

信じた道をひたむきに突き進む国岡達に、勇気をもらえます。

理工学部機械工学科１年　小川夏輝

『愚者と愚者』（上・下）（角川文庫）

打海文三[著]　角川グループパブリッシング　2008年

本書は「応化クロニクル」と呼ばれる未完の連作の第二弾に当たります。内戦が恒常化した日本で生きる子どもたちに焦点が当てられ、ストーリーが進行していきます。

ストーリーは生への根本的な肯定から成り、主人公達はあらゆる差別を憎んで行動していくことになり、ジェンダーに関する差別との対決が主題化していきます。国家という観念の衰退によって事象そのものが重みを増す世界に魅了されること請け合いです。AKを信じろ!

法学部４年　中條宏樹

『予想どおりに不合理』（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）

ダン・アリエリー[著]　熊谷淳子[訳]　早川書房　2013年

「500円、1000円、1500円のチョコが並んでいたら1000円のものを買ってしまう」「現金は1銭も盗まないけど、鉛筆1本だったら盗んでしまう」「ついつい無料に惹かれる」

これらの不合理な行動が予想出来れば、三日坊主を改善したり、彼女とケンカした理由も分かるかもしれない。そんな本です。

一応、行動経済学(心理学から見る経済のようなもの)の本です。心理に興味があるなっていう人、上に書いてることが気になった人、とりあえず有名な本を読みたい人にお薦めです。

経営学部３年　水本夕基

『中国行きのスロウ・ボート』（中公文庫）

村上春樹[著]　中央公論社　1997年（改版）

30年以上前の、1980年に発表されたこの本は、主人公が知り合った３人の中国人の記憶についての物語です。中国、隣の国とも言えますが、何となく遠いって感じてしまいますね。今の日本はむしろヨーロッパとの距離が近くて、中国との距離がまるでほぼ地球一周くらい遠くに感じているのではないでしょうか。これから買い物や旅行のために日本にやって来る30歳以下の中国人、その遠い遠い場所から来た人々と知り合って、その国の文化、その国の人達の意識を知る度に、真の中国のイメージを作りましょう。大丈夫、埃さえ払えば、まだ食べられる。

経営学部１年　程　意翔

図書館利用統計

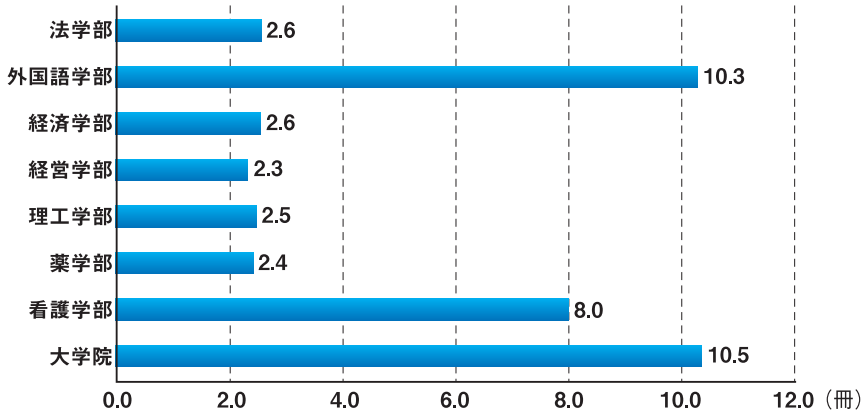
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。ここでは2015年度、2016年度（1月末まで）の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

図書館利用状況（2015年度、2016年度［1月末まで］実績）

区分		本館	分館	計
開館日数	2016年度	236日	240日	476日
	2015年度	284日	288日	572日
入館者数	2016年度	228,059人	84,665人	312,724人
	2015年度	250,867人	96,314人	347,181人
貸出者数	2016年度	17,041人	4,709人	21,750人
	2015年度	19,482人	5,330人	24,812人
貸出冊数	2016年度	30,014冊	8,817冊	38,831冊
	2015年度	35,910冊	9,745冊	45,655冊

◎2015年度は本館・分館とも前年度よりも利用が増えましたが、2016年度はともに減少傾向にあります。
図書館では、貸出者数と貸出冊数の増加を目指して継続的に努力します。

学部別1人当たり貸出冊数（2016年4月～2017年1月）



◎外国語学部と看護学部の貸出冊数が非常に多く、授業での図書館利用指導や多読学習指導の成果が出ているようです。
他学部の皆さんにも、もっとたくさんの本を借りて読んで欲しいと思います。

貸出トップ10（2016年4月～2017年1月）［本館］

タイトル／著者／出版社	貸出回数
火花 ／ 又吉直樹 ／ 文藝春秋	16
羊と鋼の森 ／ 宮下奈都 ／ 文藝春秋	13
また、同じ夢を見ていた ／ 住野よる ／ 双葉社	12
なぜ、追いつめられたネズミはネコに噛みつくのか? ／ 溝口耕児 ／ フォレスト出版	11
頭の雑音を掃除する「メモ化」 ／ 今村暁著 ／ 広済堂出版	11
脳が冴える!「朝1分勉強法」 ／ 宮川明 ／ アスコム	11
死んでいない者 ／ 滝口悠生 ／ 文藝春秋	10
異類婚姻譚 ／ 本谷有希子 ／ 講談社	10
君の膵臓をたべたい ／ 住野よる ／ 双葉社	9
天才 ／ 石原慎太郎 ／ 幻冬舎	9

＊資格・就職に関する本や参考書等は除いたランキングとなっています。

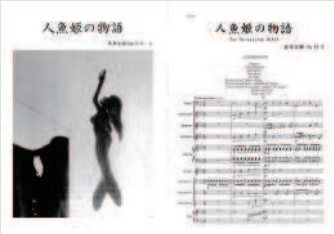
◎2016年度もメディアで話題になった本や映画化された本がよく読まれ、小説が多くなっています。ちなみに、1位「火花」の又吉氏は地元・寝屋川市出身です。

2016年度
「摂大文化大賞」入賞作品発表 !!

図書館では、学生諸君の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け、優秀な作品を表彰しています。今年度も4部門にわたり15点の応募があり、審査の結果、下記の通り8作品が受賞しました。なお、表彰式は12月15日（木）図書館本館1階ラーニング･コモンズで実施され、受賞者に表彰状と副賞が授与されました。

表彰式後の記念撮影

部　門	賞	作　品　名	作　者 所属・学年・氏名
大賞		**人魚姫の物語（楽曲）**	**理工学部（E）3年　萩原　友輔**
文芸	部門優秀賞	火	法学部4年　中條　宏樹
美術・工芸	部門優秀賞	月夜のアンコールワット	経営学部（D）3年　野村　海空
	部門準優秀賞	イリス	法学部3年　谷本　由佳
写　真	部門優秀賞	「swing」	大学院経済経営学研究科1年　チョウ　ロ
	部門準優秀賞	ダイヤモンド	外国語学部3年　本田　南帆
その他	部門優秀賞	ダンデライオン	外国語学部3年　阪上　慶伍
審査員特別賞		鎧地竜の群れと角飛竜	外国語学部1年　金本　哲生



大賞
【人魚姫の物語（楽曲）】

文芸　部門優秀賞
【火】

美術･工芸　部門優秀賞
【月夜のアンコールワット】

美術･工芸　部門準優秀賞
【イリス】

写真　部門優秀賞
【swing】

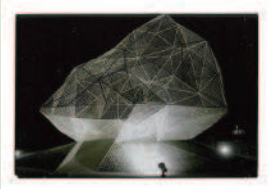
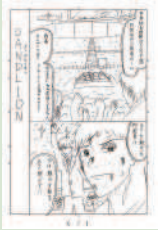


写真　部門準優秀賞
【ダイヤモンド】



その他部門優秀賞
【ダンデライオン】

審査員特別賞
【鎧地竜の群れと角飛竜】

＜編集後記＞　・今年2月に発表された第52回学生生活実態調査（全国大学生活協同組合連合会）の概要報告によれば、大学生の1日当たりの平均読書時間は24.4分（前年比−4.4分）であり、何と「0分」が49.1%（+3.9%、文系43.9%、理系50.2%など）と過去最高を記録しました。大変嘆かわしい数字です。その一方で、スマートフォンの1日当たりの平均利用時間は161.5分と前年比5.6分増加しています。スマートフォンは確かに便利で、大量の情報を入手できますが、読書から得られる知識や知的刺激、湧き上がる感情は別の物だと考えられます。
学生諸君、時間がある学生時代だからこそ、読書にいそしみましょう。そんな皆さんを図書館は応援します!

Smart and Human
摂南大学

「学而」摂南大学図書館報　No.98　2017.3　　編集･発行　常翔学園 摂南大学 図書館
本　館　〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17−8　TEL.(072)839-9111
分　館　〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45−1　TEL.(072)866-3102
URL:http://www.setsunan.ac.jp